

それは、破壊か創造か。



RED
赤き心
HEART



日本は目覚め、そして夢を見た。

五代友厚

1836年—1885年

1865年、江戸末期。薩英戦争のわずか2年後、薩摩藩は英国へ留学生を含む19名の使節団を送り出した。この英国留学生の実現に向けて藩に上申書を提出、自ら留学生を引率して海を渡った男がいる。彼の名は、五代友厚(通称:才助)。1836年、鹿児島城下に生まれた五代は、幼少期よりその才能を評価され、21歳の時には長崎海軍伝習所に派遣され、見識を広めながら勝海舟やトーマス・グラバーらとの親交を深めた。欧州から帰国した五代は、薩摩藩の海外貿易等の責任者として活躍。明治維新後は新政府の官僚として外務や財務を担当、大阪府判事も兼ね、大阪復興に尽力した。33歳で官を辞してからは、金銀分析所、製藍工場、弘成館(買収鉱山の統括機関)、現在の大阪商工会議所や大阪株式取引所、商業講習所(大阪市立大学の前身)の設立

など、起業家・実業家としての腕を発揮、大阪の恩人、大阪経済の父と呼ばれるまでになった。しかし今後の活躍が期待される中、1885年、49歳という若さで、その生涯を終えた。

葬儀には、政財界ら合わせて4千人以上が弔問に訪れたという。明治初期の成功者と思われる五代だが、財産はなく100万円(現在でいう数億円)を越える借入書が残されていたと伝えられている。



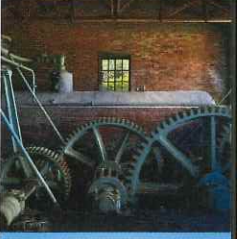
国会図書館蔵

逸話、伝説、汚名。その男の真の姿を知りたい。

「高等に世界地図を模写しそれを元に地球儀を自作した。」「北海道開拓使の廃止を前に、長官の黒田清隆が同じ薩摩出身の五代友厚に、北海道の官有物を不当な安価で払い下げようとし問題となり、世間の批判を買った。」時の流れとその後の研究で明らかになった五代に関する

史実。知られざる五代を追いかけてみたい。この企画展のコピーライター・北村公博が、鹿児島、長崎、大阪と五代ゆかりの地を訪ね、大学教授、映画プロデューサー、子孫など、現代に生きる五代の関係者の声を集めながら、五代友厚の「赤心」を探るドキュメンタリー映像&パネル展示。

その男のまっすぐな情熱により、



薩摩藩英国留学生記念館
SATSUMA STUDENTS MUSEUM



鹿児島県いちき串木野市羽島4930番地 TEL 0996-35-1865 <http://www.ssmuseum.jp>

【開館時間】10:00～17:00【休館日】火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日) 川内駅・串木野駅から無料送迎バス運行【要予約】

【観覧料】大人(高校生以上)300円 小人(小・中学生)200円 ※団体割引(20名以上)、障がい者手帳を保有するお客様は一律50円引き

